

専門委員会開催報告

| | |
|--------|--|
| 専門委員会名 | 第 5 回「社会と共存する魅力的な軽水炉の展望」調査専門委員会 |
| 開催日時 | 平成 28 年 3 月 17 日(木) 13:00~16:00 |
| 開催場所 | 東京大学工学部 8 号館 510 号室 |
| 参加人数 | <p>【委員 16 名】山本主査(名大)、山口幹事(東大)、岡本幹事(東大)、越塚幹事(東大)、宇井委員(電中研)、糸井委員(東大)、村上委員(IEE)、黒崎委員(阪大)、佐治委員(MHI NS エンジ)、木藤委員(日立)、溝上委員(東電)、堺委員(東芝)、岡村委員(東芝)、山路委員(早大)、吉津委員(MHI)、成川(JAEA)</p> <p>【常時参加者 1 名】神谷氏(原電)</p> <p>【オブザーバー 1 名】松中氏(東電)</p> |
| 議 事 | <p>1. 前回会合の議事録の確認及び論点の整理 前回会合の議事録について、事前に委員に配布されていた内容が承認された。また、山本主査及び事務局より、これまでの議論の経緯及び論点に関して説明がなされた。</p> <p>2. Practically eliminate(PE)と Evacuation free(EF)の解釈と考え方に係る論点の検討 黒崎委員、溝上委員、岡本幹事より、PE 及び EF の解釈と考え方に係る検討結果の報告がなされ、これについて質疑を行った。PE 及び EF をプラント設計の目標とすることの意味等について議論がなされた。</p> <p>3. 物理障壁に係る論点の検討 糸井委員より、物理障壁に係る論点の検討結果の報告がなされ、これについて質疑を行った。障壁の概念を拡張し、定義すること等について議論がなされた。</p> <p>4. 深層防護の実装に係る論点の検討 成川委員より、深層防護の実装に係る論点の検討結果の報告がなされ、これについて質疑を行った。潜在的なハザードや、社会的リスク、サイト外対応を考慮した深層防護の実装の在り方等について議論がなされた。</p> <p>5. 次回日程と今後のアクション ・事務局は GenIII+を含む各種軽水炉の安全上の特徴をまとめた表を再度整理し、各委員に提示する。 ・PE と EF、物理障壁及び深層防護に関する各検討チームは、本委員会におけるこれまでの議論をまとめ、次回会合において提示する。 ・Active/passive 系機器の最適化に関する論点は次回会合において議論する。 ・次回会合は 6 月上旬を予定している。詳細日程は事務局にて調整後、別途連絡する。</p> |
| 備 考 | なし。 |

専門委員会開催報告

| | |
|--------|---|
| 専門委員会名 | 第 4 回「社会と共存する魅力的な軽水炉の展望」調査専門委員会 |
| 開催日時 | 平成 27 年 12 月 21 日(月) 13:00～16:00 |
| 開催場所 | 東京大学工学部 8 号館 226 講義室 |
| 参加人数 | <p>【委員 17 名】山本主査(名大)、山口幹事(東大)、越塚幹事(東大)、丸山委員(JAEA)、宇井委員(電中研)、糸井委員(東大)、村上委員(IEE)、黒崎委員(阪大)、佐治委員(MHI NS エンジ)、木藤委員(日立)、浦田委員(関電)、溝上委員(東電)、堺委員(東芝)、岡村委員(東芝)、近藤委員(東大)、山路委員(早大)、成川(JAEA)記</p> <p>【常時参加者 2 名】田中氏(JNFL)、神谷氏(原電)</p> |
| 議 事 | <p>1. 前回会合の議事録の確認及び論点の整理 前回会合の議事録について、事前に委員に配布されていた内容が承認された。また、事務局よりこれまでの議論の論点に関して説明がなされた。</p> <p>2. 安全原則、安全目標、及び性能目標に係る論点の検討 丸山委員より、社会と共存する魅力的な軽水炉が満足すべき安全原則、安全目標、及び性能目標に係る検討結果の報告がなされ、これについて質疑を行った。安全目標と性能目標の位置づけ等について議論がなされた。</p> <p>3. 軽水炉が備えるべき社会的受容性に関する講演と質疑 軽水炉が備えるべき社会的受容性について 2 件の講演及び質疑を行った。村上委員より産業界の視点から、世界の原子力発電開発動向等に基づき、原子力開発の主要なドライバは 3E であること等が説明された。神谷氏より事業者の視点から、長期避難を実質的に不要とする設計のコンセプトが重要である等の説明がなされた。</p> <p>4. 次回日程と今後のアクション ・事務局は GenIII+及び GenIV 炉の炉型の安全上の特徴をまとめた資料を再度整理し、各委員に提示する。 ・安全原則、安全目標、及び性能目標に係る検討チームは論点を再度整理し、社会と共存する魅力的な軽水炉が満足すべき安全目標及び性能目標を次回会合において提示する。 ・Practically eliminate、Evacuation free 及び深層防護に関する各検討チームは、次回会合において検討結果を報告する。 ・幹事及び事務局は、経済性・エネルギー安全保障に関する検討チームのメンバーに事業者やメーカー所属の委員を入れることを検討する。 ・次回会合は 3 月頃を予定している。詳細日程は事務局にて調整後、別途連絡する。</p> |
| 備 考 | なし。 |

専門委員会開催報告

| | |
|--------|---|
| 専門委員会名 | 第 3 回「社会と共存する魅力的な軽水炉の展望」調査専門委員会 |
| 開催日時 | 平成 27 年 9 月 7 日(月) 13:00～16:00 |
| 開催場所 | 東京大学工学部 8 号館 226 講義室 |
| 参加人数 | <p>【委員 17 名】山本主査(名大)、山口幹事(東大)、岡本幹事(東大)、越塚幹事(東大)、木倉委員(東工大)、丸山委員(JAEA)、宇井委員(電中研)、糸井委員(東大)、村上委員(IEE)、佐治委員(MHI NS エンジ)、石井代理(日立/木藤委員)、堺委員(東芝)、溝上委員(東電)、近藤委員(東大)、山路委員(早大)、吉津委員(MHI)、成川委員(JAEA)</p> <p>【常時参加者 2 名】田中氏(JNFL)、神谷氏(原電)</p> <p>【講師 2 名】田淵浩三氏(MHI)、他 1 名</p> |
| 議 事 | <p>1. 前回会合の議事録の確認及び論点の整理 前回会合の議事録について、事前に委員に配布されていた内容が承認された。また、事務局よりこれまでの議論の論点に関して説明がなされた。</p> <p>2. 今後の進め方について 山本主査より、今後の当委員会における議論の進め方に関し、今後のスケジュール及び論点等の説明があり、これについて議論を行った。魅力的な軽水炉像に関し、ステークホルダーの一つとして、産業界からの意見を聴くことが重要であるとの意見が提出された。</p> <p>3. 軽水炉が備えるべき社会的受容性に関する講演と質疑 原子力発電所の立地地域の観点から軽水炉が備えるべき社会的受容性について説明があり、これについて質疑応答を行った。地元の関心は主に事故時の避難対策にあり、プラントの状態を監視するモニタリング機能の強化が求められていることや、安全性や経済性、保守性等の面で最適化されたプラントのあり方を議論することが重要である等の意見が提出された。</p> <p>4. Gen III+炉設計に関する講演と質疑 三菱重工の田淵様より ATMEA1 の設計概要について説明があり、これについて質疑応答を行った。アクティブ及びパッシブ安全系の設計の考え方やサイト外退避の可能性の排除の設計上の考え方等について議論がなされた。</p> <p>5. 次回日程と今後のアクション ・産業界からの意見を聴くことについて、幹事及び事務局にて別途検討する。 ・次回会合は 12 月頃を予定している。詳細日程は事務局にて調整後、別途連絡する。</p> |
| 備 考 | |

専門委員会開催報告

| | |
|--------|---|
| 専門委員会名 | 第 2 回「社会と共存する魅力的な軽水炉の展望」調査専門委員会 |
| 開催日時 | 平成 27 年 5 月 25 日(月) 13:00~15:30 |
| 開催場所 | 東京大学工学部 8 号館 226 講義室 |
| 参加人数 | 【委員 14 名】山本主査(名大)、岡本幹事(東大)、越塚幹事(東大)、丸山委員(JAEA)、宇井委員(電中研)、村上委員(IEE)、黒崎委員(阪大)、佐治委員(MNEC)、木藤委員(日立)、堺委員(東芝)、近藤委員(東大)、山路委員(早大)、吉津委員(MHI)、成川委員(JAEA) 【常時参加者 2 名】田中氏(JNFL)、神谷氏(原電) 【講師 1 名】寿楽 浩太氏(電機大) |
| 議 事 | <ol style="list-style-type: none">1. 前回議論の論点整理 事務局より前回会合における議論の論点に関して説明がなされた。2. 社会と共存する魅力的なプラントとして軽水炉を対象とすることに関する議論 事前に提出された資料に基づき、社会と共存する魅力的なプラントとして軽水炉を対象とすることについて、各委員及び常時参加者から説明がなされた。提出された意見をもとに、検討の対象とする時間軸の設定等について議論がなされた。3. 軽水炉が備えるべき社会的受容性に関する講演と質疑 東京電機大学の寿楽先生より軽水炉が備えるべき社会的受容性について説明があり、これらについて質疑応答を行った。魅力的な軽水炉を検討していく上では、広くステークホルダーの意見を聴くことが重要である等の意見が提出された。4. 次回日程と今後のアクション<ul style="list-style-type: none">・ 事務局は今回議論した内容を整理し、その論点をまとめ、次回会合までにメールにて各委員に連絡する。・ 事務局は寿楽先生のご講演についてその内容を整理し、次回会合において提示する。・ 広くステークホルダーの意見を聴くことについて、幹事及び事務局にて別途検討する。・ 次回会合は 3 か月後を予定している。詳細日程は事務局にて調整後、別途連絡する。 |
| 備 考 | |